

敦賀市学校施設長寿命化計画 概要版



学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

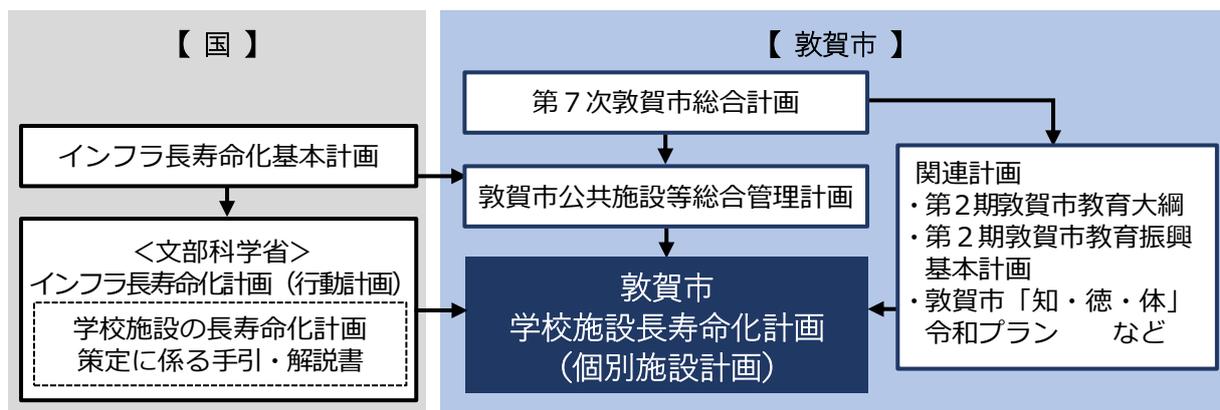
計画の背景と目的

本市が保有する学校施設の多くは、昭和 50 年代から昭和 60 年代にかけて建設されたもので、全体の 9 割以上が建築後 30 年を経過するなど老朽化が進んでおり、学校施設の維持管理及び更新が今後の財政に与える影響は、非常に大きいと考えられます。

一方、学校施設に対するニーズは多様化しており、多様な学習内容や形態への対応、学習空間の快適化、防災対策、環境負荷の低減など、様々な配慮が求められています。

このような状況を踏まえ、従来の事後保全型から予防保全型への転換による学校施設の長寿命化に取り組み、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減と改修に係る予算の平準化を図ることを敦賀市学校施設長寿命化計画の目的とします。

計画の位置づけ



計画期間

- ・計画期間は、令和 3 年度（2021 年度）から令和 43 年度（2061 年度）までの 40 年間とします。
- ・概ね 5 年毎に見直しを行うことを基本に、児童生徒数の変化、社会経済情勢、国の補助制度の動向等により早急な対応が必要な場合は、随時見直すものとします。

対象施設

小学校 10 校	敦賀西小学校、敦賀南小学校、松原小学校、中央小学校、沓見小学校、東浦小中学校、中郷小学校、粟野小学校、粟野南小学校、黒河小学校
中学校 4 校	気比中学校、角鹿中学校、松陵中学校、粟野中学校
幼稚園 2 園	敦賀北幼稚園、松陵幼稚園

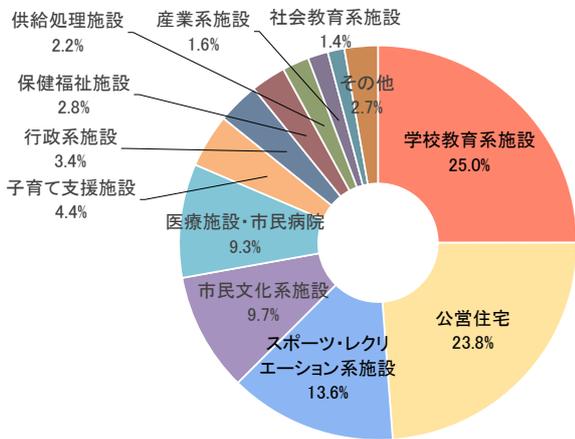
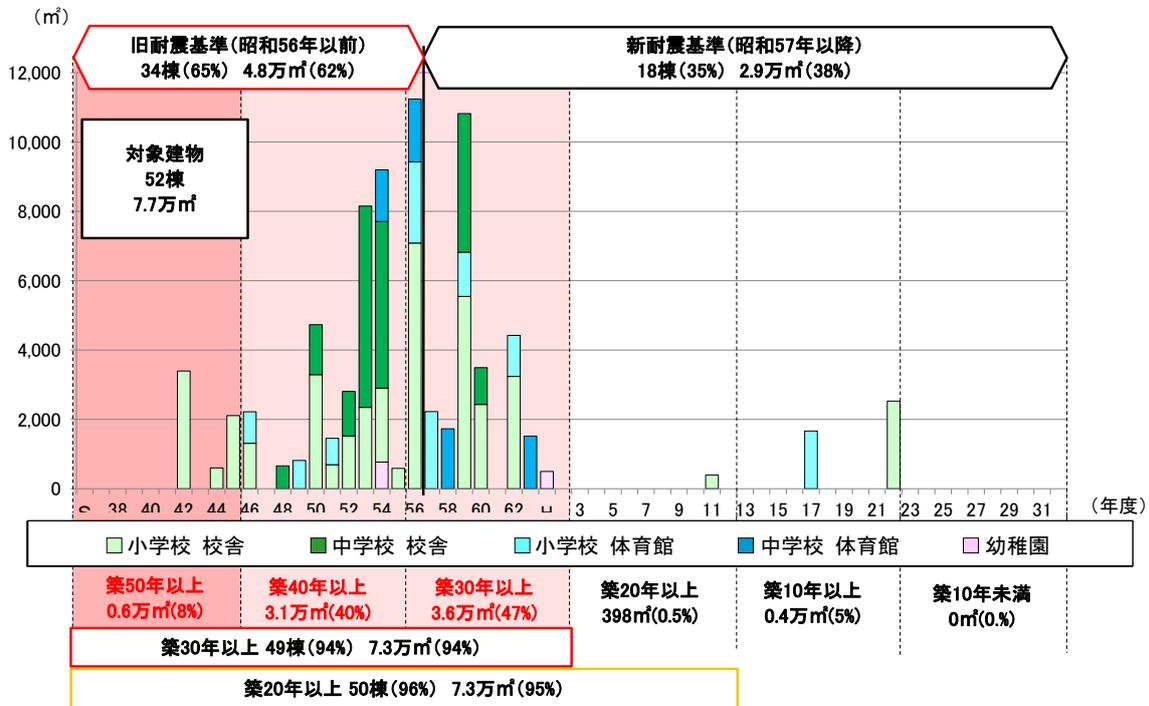
※敦賀北・赤崎・咸新小学校は、令和 3 年 4 月に角鹿小中学校として開校するため、対象外とする。

※西浦小学校、常宮小学校、西浦中学校は、休校中のため対象外とする。

学校施設の実態

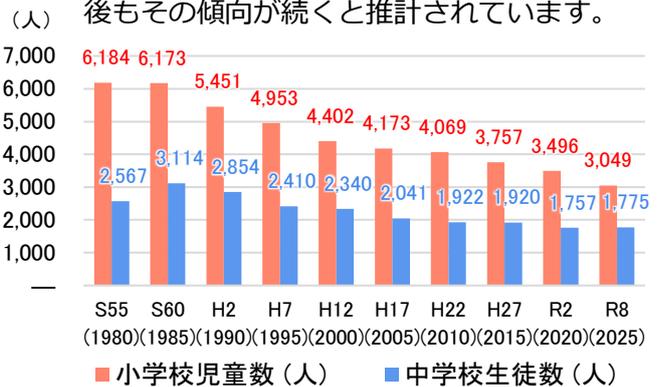
学校施設の保有量

- 学校施設は、敦賀市の公共施設全体の約 25.0%（面積比）を占めています。
- 学校施設の保有量は、対象施設 52 棟、延床面積約 7.7 万㎡であり、築 30 年以上の建物が 49 棟（全体の 94%）、延床面積約 7.3 万㎡（全体の 94%）と老朽化が進んでいる状況です。



児童生徒数の将来推計

- 児童数生徒数は、長年、減少傾向にあり、今後もその傾向が続くと推計されています。



学校施設の老朽化状況

- 学校施設の健全度について、現場調査・点検を行い、施設の部位別に 5 段階で評価をしました。
- 棟ごとに部位別の健全度と築年数を総合的に評価し、改修等の優先度を次のように判定しました。

優先度	小学校	中学校	幼稚園	合計
優先度 1	9 棟	1 棟		10 棟
優先度 2	8 棟	2 棟		10 棟
優先度 3	7 棟	6 棟	2 棟	15 棟
優先度 4	11 棟	6 棟		17 棟

学校施設の目指すべき姿

学校施設の目指すべき姿

- ・ 敦賀市教育振興基本計画等の考え方を踏まえ、学校施設の目指すべき姿を次のように整理します。
 - 安全性の高い学校施設（地震や洪水等の災害に強い、防災機能の充実等）
 - 快適性の高い学校施設（学習能率の向上やバリアフリーに配慮した環境整備等）
 - 学習環境への適応性が高い学校施設（学習効果を高めるためのICT環境の充実等）
 - 地域の拠点となる学校施設（地域に開かれた学校とするための環境整備等）

学校施設整備の基本的な方針等

学校施設の規模・配置計画等の方針

- ・ 現在の小中学校や幼稚園は、敦賀市公共施設等総合管理計画の考え方を踏まえ、**定期的な点検調査による予防保全型の維持管理や計画的な長寿命化改修等の実施**により、施設の安全性確保と財政負担の平準化・抑制を図ります。
- ・ 令和3年4月開校の角鹿小中学校（敦賀北小、赤崎小、咸新小、角鹿中が統合した小中一貫校）では、施設の効率的な利用や多様な変化への対応等を考慮し、次のような施設整備を行っています。
 - ※ 特別教室や職員室等を小中兼用とするなど、施設機能を集約化
 - ※ 教室間の壁の一部を可動間仕切りとした、今後の児童生徒数の増減に対応できる施設仕様
- ・ 一方、幼稚園については、今後の園児数の動向を見極めながら、他の子育て支援施設との統廃合を検討していくものとします。

改修等の基本的な方針

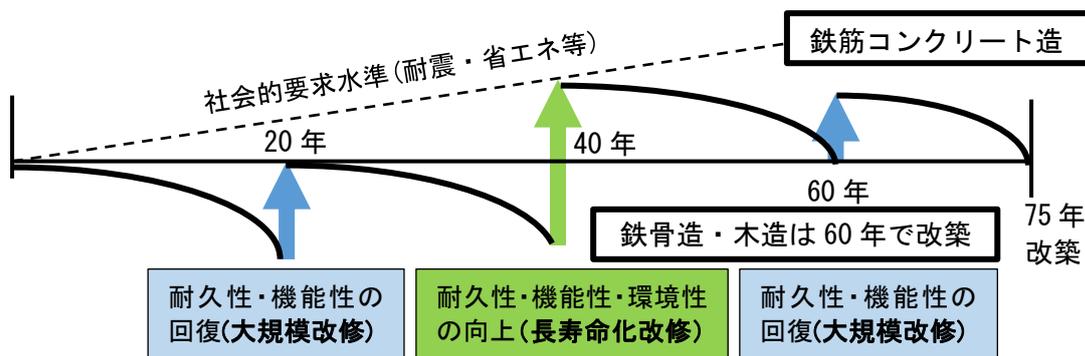
- ・ 長寿命化改修の推進による目標耐用年数は、日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」を基に、構造別に概ね次のように設定します。

【鉄筋コンクリート造】 75年

【鉄骨造】 60年

【木造】 60年

- ・ 長寿命化改修が適切と判断される建物については、目標耐用年数の実現に向けて、下図に示す改修周期により、長寿命化改修や大規模改修を実施していくことを基本とします。



長寿命化の整備水準

- ・ 長寿命化改修に関しては、次の3つの視点を踏まえ、実施していくものとします。

1. 耐久性の向上

…鉄筋の腐食対策・屋根・外壁仕上げのグレードアップ 等

2. 施設環境・質の向上

…屋根・外壁の高断熱化や心理的室内環境の向上(木質化) 等

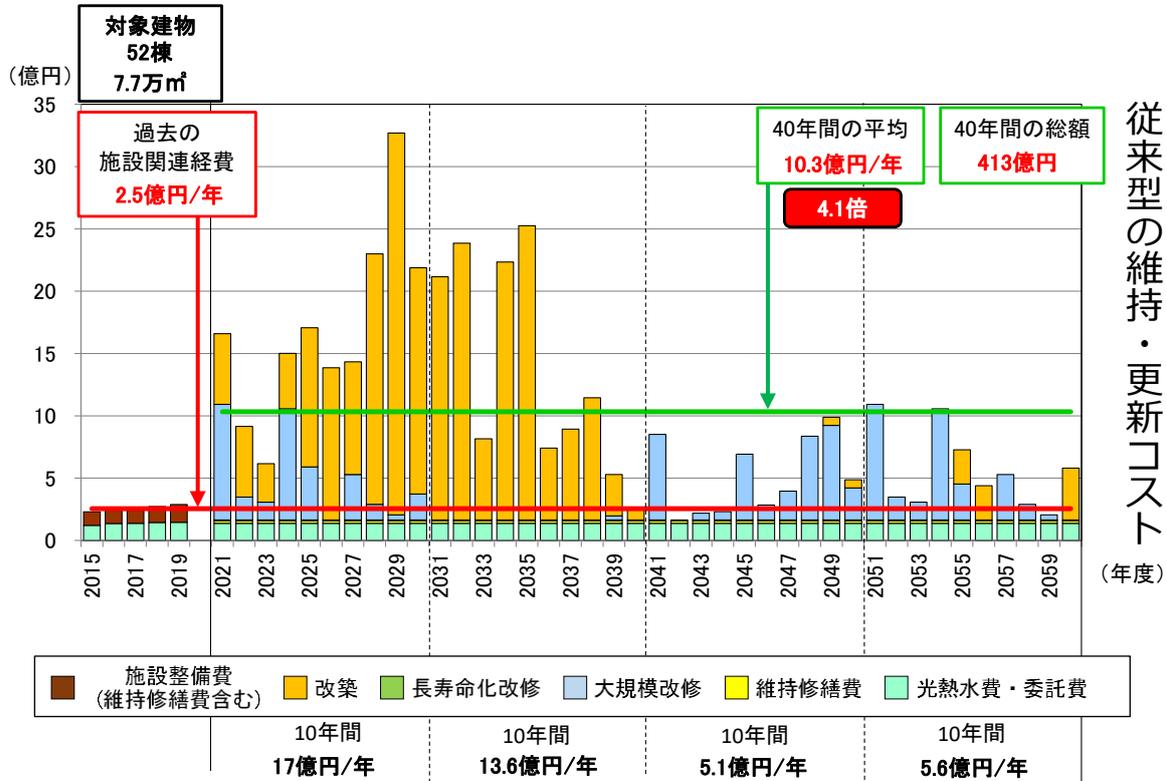
3. 新たな機能・複合化

…ICT機能やWeb遠隔授業の充実、オープンスペースの設置 等

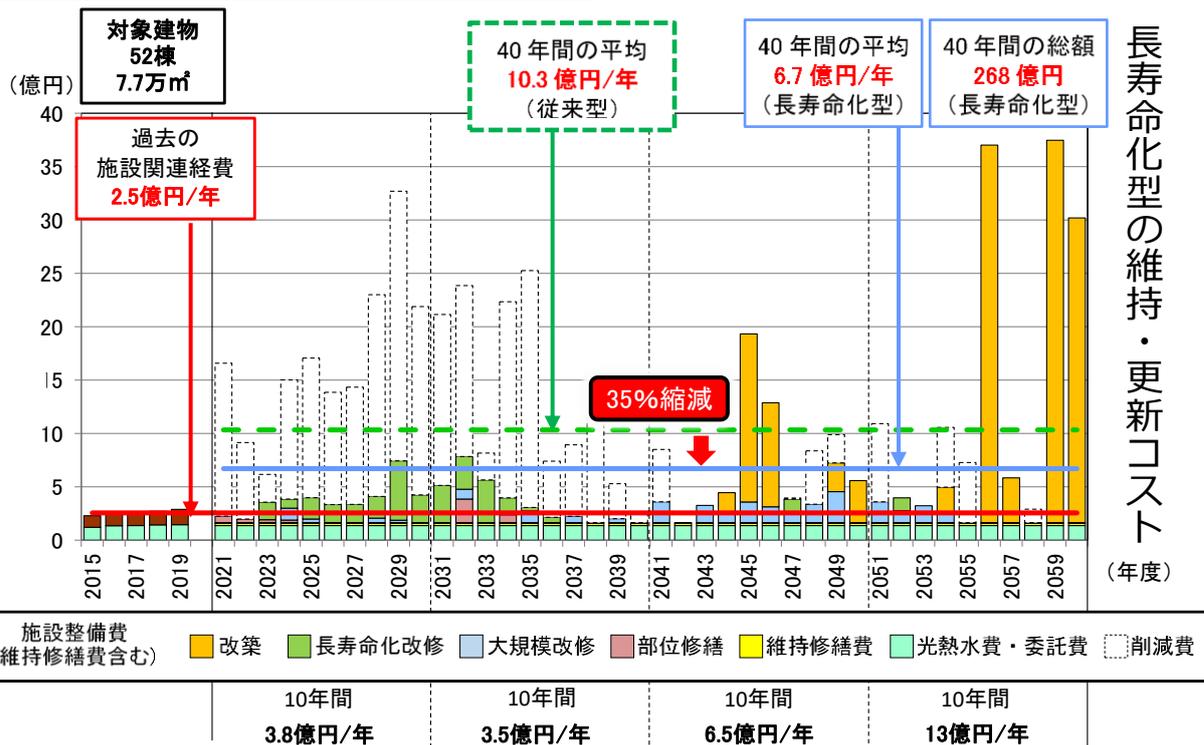
長寿命化の実施計画

今後の維持・更新コストの比較

・今後 40 年間の維持・更新コストは、これまでと同様に築 50 年程度で建替えを行う場合、**総額 413 億円 (10.3 億円/年)** となり、**過去 5 年間の施設関連経費 (2.5 億円/年) の 4.1 倍** となります。



・改築中心の従来型管理からの転換を図り、**計画的な長寿命化改修**による管理を行った場合、今後 40 年間のコストは、**総額 268 億円 (約 6.7 億円/年)** となり、**従来型の維持・更新コストに対して、約 35% (総額 145 億円、年平均 3.6 億円) の縮減** となります。



直近5年間の整備計画

- ・令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）の直近5年間においては、優先度判定を「1」とした施設を基本に改修等を実施します。
- ・長寿命化改修等に関しては、厳しい財政状況の中、国の補助金等を積極的に活用し実施していきます。
- ・長寿命化改修における国の要件等により、優先度判定とは異なる時期に改修等を実施する場合があります。

表 直近5年間の年度別整備費概算（修繕等を除く）

（単位：億円）

和暦	R3	R4	R5	R6	R7
西暦	2021	2022	2023	2024	2025
	0	0	2.4	2.7	2.6

長寿命化計画の継続的運用方針

情報基盤の整備と活用

- ・施設の状態や過去の改修・交換履歴、事故・故障の発生状況等をデータベースとして蓄積します。
- ・データベースは、建築基準法に基づく12条点検等の法定点検の結果等、継続的な点検・調査の結果に基づいて、適切に更新していきます。

推進体制等の整備

- ・敦賀市公共施設等総合管理計画の「公共施設等の管理に関する基本的な考え方」に従い、今後、公共施設及びインフラ施設の総合的かつ計画的な管理を継続していきます。
- ・公共施設等総合管理計画の担当課を中心に、情報の一元管理、大規模修繕や建替えにあたっての優先順位の協議、個別の事業計画と全体方針との調整など、庁内の横断的なマネジメントによる維持・管理等を推進するための体制を構築します。

フォローアップ

- ・本計画は、計画期間40年の長期的な計画であり、その間における学校教育や地域を取り巻く様々な環境の変化に対応した実効性のある計画とするため、概ね5年を目途にPDCAサイクルによる定期的な見直しを行うものとします。
- ・また、定期的な見直し以外でも、著しい社会経済情勢や行財政事情等の変化が生じた場合には、随時、計画を見直すものとします。